

# 竹内街道・横大路(大道)～難波から飛鳥へ日本最古の官道～ ガイド付ウォーキングイベント

## 大阪府羽曳野市

コース  
マップ

世界遺産「古市古墳群」をはじめさまざまな史跡を巡り、古代の歴史を感じるコース

### 日本遺産認定歴史の道、竹内街道・横大路(大道)とは

推古天皇21(613)年に敷設された竹内街道・横大路(大道)は、外交の玄関口である難波津から堺を経て、政治の中心だった飛鳥・小麿田宮(おはりだのみや)を結ぶが国最古の官道。総延長約40キロ、幅20メートル以上だったといわれる。難波宮の朱雀大路から南下する難波大道、堺と長尾神社(奈良県葛城市)東西に結ぶ竹内街道、長尾神社から小西橋(桜井市)を結ぶ横大路の三つの道からなる。古代以来、大陸との外交や聖徳太子信仰、物流の拠点を結ぶ経済など、時代とともに多様な表情を刻んできている。平成29(2017)年に日本遺産に認定された。



主催:竹内街道・横大路～難波から飛鳥へ日本最古の官道「大道」～活性化実行委員会 共催:産経新聞社  
(大阪府・大阪市・堺市・松原市・羽曳野市・太子町・奈良県・葛城市・大和高田市・橿原市・桜井市・明日香村)

ガイド:羽曳野まち歩きガイドの会



令和元年度文化庁文化芸術振興費補助金  
(地域文化財総合活用推進事業)



### ⑤仁賢天皇陵古墳

第24代 仁賢天皇の埴生坂本陵(はにうのさかもとのみささぎ)に定められています。

丘の縁(へり)の地形をうまく利用して築造した、墳丘の長さ122mの前方後円墳で、墳丘の周囲には濠(ほり)と堤(つつみ)が巡らされています。

直径65m、高さ11.5mの後円部に対して、前方部が幅108m、高さ13mと大きく発達した新しいスタイルの前方後円墳です。6世紀前半に築造されたと考えられます。

北西側の堤の外縁に接する丘の斜面では、埴輪を焼いた半地下式の登り窯(のぼりがま)2基が発見されています。仁賢天皇陵古墳に立てられていた埴輪と特徴が一致していて、この古墳の場合には、ごく近い場所で埴輪を焼いていたことがわかります。



### ⑥野中寺

ゆるやかに上る竹内街道の道すじから、古代のすがたに復元された朱塗りの門がまだかに望まれます。

聖徳太子の発願により蘇我馬子(そがのうまこ)が建立したと伝えられ、四天王寺から墓所がある太子町觀福寺への太子まいりの道すじの、「中之太子」として知られた太子ゆかりの寺院です。

境内には7世紀中頃に建てられたと推定される金堂(本堂)と塔の跡が今も残り、古代寺院の莊嚴な伽藍(がらん)を偲(しのぶ)ることができます。金銅弥勒菩薩半跏像(こんどうみろくばさつはんかぞう)は白鳳文化を代表する仏像として、重要文化財に指定されています。



### ①竹内街道

竹内街道の起源は推古天皇21(613)年に設置された、難波(なにわ)と飛鳥のみやこを結ぶ「大道」にさかのぼります。この道を受けついだ竹内街道は、時代の移り変わりに伴い大きな役割を果たしてきました。

1,400年の時を刻んで、飛鳥のみやこから大陸にもつながる「交流の道」、聖徳太子ゆかりの寺々や伊勢神宮に詣でる「信仰の道」、大坂の町と生産地を結ぶ綿や農産物などの「物流の道」、そして今なお大阪と奈良を結ぶ国道166号線や南阪奈道路として、まちとまち、人と人とのつながりをつないでいます。

「1400年に渡る悠久の歴史を伝える『最古の国道』～竹内街道・横大路(大道)～」は日本遺産に認定されています。



### ②白鳥陵古墳

濠(ほり)に浮かぶように見える姿が美しい白鳥陵古墳は、墳丘の長さ200m、高さ23mの巨大な前方後円墳で、5世紀後半に造られたと考えられています。

「伊勢で亡くなった日本武尊(やまとたけるのみこと)が、白鳥に姿を変えて河内の旧市邑(ふるいちのむら)に舞い降り、そこに白鳥陵(しらとりのみささぎ)が造られたが、ついには天に上ってしまわれた」という白鳥伝説が、『日本書紀』などに伝えられています。

この時、「羽を曳(ひ)くように空を飛んでいった」という言い伝えは、羽曳野市の名称の由来とされています。



### ⑦応神天皇陵古墳 世界遺産

第15代 応神天皇の恵我藻伏丘陵(えがのもふしのおかのみささぎ)に定められています。

古市古墳群で最大の応神天皇陵古墳は墳丘の長さ425mの巨大な前方後円墳で、百舌鳥古墳群(堺市)の仁徳天皇陵古墳(長さ486m)に次ぐ第2位の規模をもっています。

3段に築かれた墳丘の高さは36mもあり、土の量は約143万m<sup>3</sup>と推定されます。周囲には濠と堤を2重に巡らし、複数の陪塚(ばいちょう 付属の古墳)を配置しています。

古墳時代の中期、5世紀前半に築造されたと考えられ、規模や構造がもっとも発達した巨大前方後円墳のすがたを示しています。



### ⑧誉田丸山古墳 世界遺産

応神天皇陵古墳の北側の外濠と外堤に接して造られた、直径50m、高さ7mの大型の円墳で、位置関係からみて応神天皇陵古墳の陪塚(ばいちょう 付属の古墳)の一つと考えられています。

墳丘の頂上部には蓋形(きぬがさがた 笠)、家形、盾形、鞍(ゆぎ 矢を携帯する入れもの)などの形象埴輪が配置されていたよう

です。江戸時代の末(19世紀中頃)にぐうぜん発見され、誉田八幡宮に納められた金銅製(銅に金めっきした製品)の鞍金具(くらかなぐ 乗馬の際に用いる鞍の飾り金具)は、龍の文様を透彫(すかしおり)で表した豪華なもので、現在は国宝に指定されています。



### ③旧浅野家住宅 オキナ酒造場

竹内街道に面した長屋門を入った広い敷地には、主屋(しゅや)を中心に土蔵や茶室、納屋などが建ち並び、昔からの街道沿いの村の風情が感じられます。主屋はおよそ150年前に建てられたと伝えられる切妻造り、つしまで、土壁には虫籠窓(むしこまど)が開いています。

江戸時代後期には屋敷の中で絞油(こうゆ あぶらしぶり)業を営んでいたようですが、その後、酒造業にかかり、釜屋やこうじ部屋、発酵蔵などの建物を整備しています。

【現在、羽曳野市では竹内街道や古市古墳群を歩く拠点として、この建物を整備、復元し、江戸時代の街道の風景をよみがえらせる計画を進めています。】

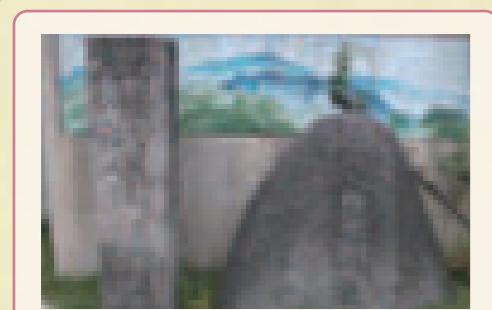


### ④峯ヶ塚古墳 世界遺産

古市古墳群の南西部に築造された、墳丘の長さ96m、高さ10mの前方後円墳で、周囲には内濠と堤(つつみ)、外濠が巡らされています。

後円部の中心部に造られた石室の発掘調査では、銀や鹿角の装飾をもつ大刀(たち)や、金銅(銅に金めっき)や銀などで作った垂れ飾りや花形の飾り、魚形の飾り、冠帽(かんぼう 冠やぼうし)や帶金具など、多数の豪華な副葬品(ふくそうひん)が発見されました。

墳丘に配置されていた埴輪や副葬品の特徴から、5世紀末頃に築造されたと考えられます。

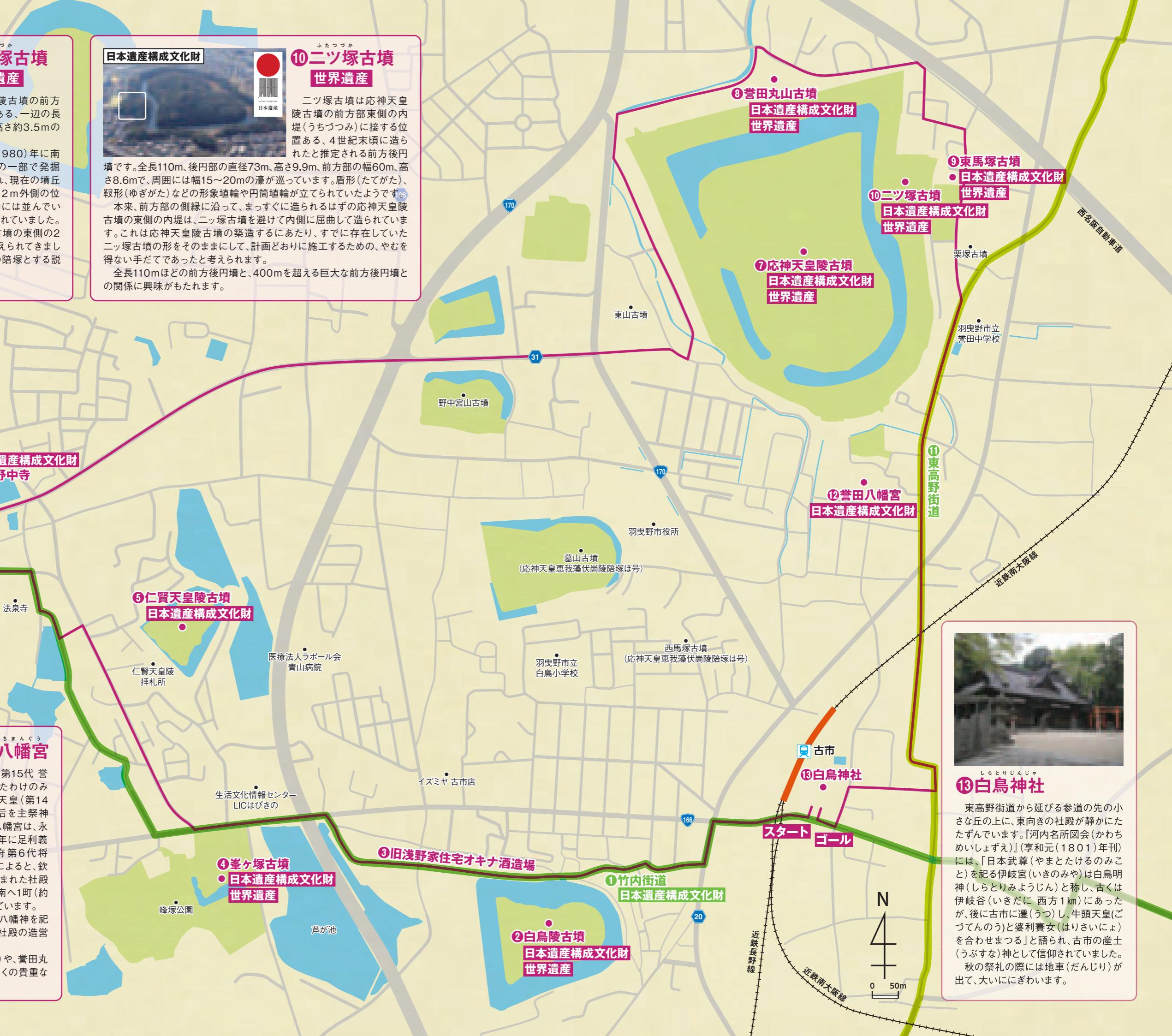


## ⑪ 東高野街道

弘法大師空海への信仰が広まるごとに、大師が開いた高野山への参詣が京の都の貴族や武士の間で行われるようになりました。江戸時代になると高野参りは庶民の間にも広まり、各地からの高野山への道がにぎわいました。

その一つ、東高野街道は京都から八幡(やわた)を経て、生駒山の西の麓(ふもと)をたどり、羽曳野市域の誉田へ入り、古市では東西の大道、竹内街道と交差します。さらに南へ向かい東阪田などを通り、河内と紀伊との国境、紀見峠を越えると、いよいよ高野山への険しい道が迫ります。

東高野街道の道すじをたどると、誉田八幡宮や白鳥神社、誉田、古市の町並み、石の道しるべが、かつてのにぎわいを偲(しの)ばせてくれます。



## ⑬ 白鳥神社

東高野街道から延びる参道の先の小さな丘の上に、東向きの社殿が静かにたたずんでいます。『河内名所図会(かわちめいしょずえ)』(享和元(1801)年刊)には、「日本武尊(やまとたけるのみこと)を祀る伊岐宮(いきのみや)は白鳥明神(しらとりみょうじん)と称し、古くは伊岐谷(いきだに)西方1km)にあったが、後に古市に遷(うつ)し、牛頭天皇(ごづてんのう)と婆利賽女(はりさいにょ)を合わせまつる」と語られ、古市の産土(うぶすな)神として信仰されていました。

秋の祭礼の際には地車(だんじり)が出て、大いにぎわいます。